

平成30年度協働のための職員研修について

【目的】

職員の協働についての理解を深めるとともに、全庁的な協働推進体制を確立し、庁内外におけるコーディネート力を養成するための研修を実施

【概要】

- ・日 程:平成31年1月16日(水)、29日(火)の内、いずれか1日に参加
- ・対 象:主に課長補佐級職員…各課から1名、計96名参加(1/16…47名、1/29…49名)
- ・講 師:ふくおかNPOセンター 代表 古賀 桃子 氏
いしかわ市民活動ネットワーキングセンター 事務局長 青海 康男 氏
- ・内 容:(1)講義の聴講
 - ①「協働とは」
 - ②「NPOとは」
 - ③「古今東西すてきな取り組みコレクション」…取組事例の紹介(2)個人ワーク及びグループワーク(5名～6名)により、協働事業の企画案を作成し、発表して全体で共有する。
(3)参加者それぞれが、協働事業の推進に向けて今後取り組む内容を決意として記載し、発表して全体で共有する。
- ・実施後アンケート調査結果:別紙「受講者アンケート結果」参照

平成30年度 協働のための職員研修 受講者アンケート結果

実施日	時間	会場	受講人数	アンケート回収数
1月16日(水)	9:30~16:30	奈良市役所 正庁	47名	47枚
1月29日(火)	9:30~16:30	奈良市役所 正庁	49名	45枚
合計			96名	92枚

第1問 あなたの所属部署を教えてください。

総合政策部	4	環境部	5
総務部	4	観光経済部	3
財務部	3	都市整備部	6
市民生活部	10	建設部	3
市民活動部	6	会計契約部・会計課・各種委員会・議会	5
福祉部	6	教育委員会	7
子ども未来部	4	消防局	9
健康医療部	4	企業局	11
		無回答	2
		合計	92

第2問 今回の研修の内容は理解できましたか。

回答	回答数	割合
1 よく理解できた	15	16.3%
2 ある程度理解できた	74	80.4%
3 あまり理解できなかった	2	2.2%
4 ほとんど理解できなかった	0	0.0%
無回答	1	1.1%
合計	92	100.0%

※3・4を選んだ方は、理解できなかった理由をお選びください。(複数回答可)

回答	回答数
1 内容に具体性がなかった	1
2 内容が専門的で難しかった	1
3 その他	0

第3問 研修を受講して、どのような意識の変化がありましたか。(複数回答可)

回答	回答数
1 協働をより前向きに捉えるようになった	32
2 庁内連携の必要性を痛感した	58
3 特に意識の変化はなかった	10
4 その他	3
無回答	4

【その他の内容】

- ・市民のニーズがどこにあるのか？を感じながら、仕事をしようと思った。
- ・委託との違いや協働補助金の予算化方法がよくわからない
- ・庁内連携の難しさが分かった

第4問 研修で学んだことを、今後の業務に活用してみようと思いますか。

回答	回答数	割合
1 ぜひ活用したい	10	10.9%
2 機会があれば活用したい	70	76.1%
3 活用したいとは思わない	1	1.1%
4 活用できることはない	8	8.7%
5 その他	0	0.0%
無回答	3	3.3%
合計	92	100.0%

※1・2を選んだ方は、どのようなことで協働したいと考えたか具体的にお書きください。

【別紙参照】

※3・4を選んだ方は、活用できないと考える理由をお選びください。(複数回答可)

回答	回答数
1 自分の従事する仕事では協働できるような活動をしていないから	7
2 協働の相手となる市民公益活動団体等が、事業を実施する上で適任かどうかの判断ができないから	0
3 協働の相手となる市民公益活動団体等がわからないから	0
4 協働によって行う事業について、具体的な進め方がわからないから	1
5 その他	2

【その他の内容】

- ・協働を試みても、最後は個人の権利に帰してしまうから
- ・特に活用できるような目新しい内容がなかったため

第5問 今後、市民参画や協働の取り組みを進めるために、研修に取り入れてほしいことは何ですか。(複数回答可)

回答	回答数
1 市民参画や協働に関する基礎知識	23
2 市民公益活動団体等と協働が進んでいる自治体の先進事例	51
3 市民公益活動団体等と協働を行う上での具体的なコツ	40
4 わからない・学びたいことは特になし	0
5 その他	4
無回答	6

【その他の内容】

- ・ワークショップの進め方
- ・行政としての具体的な対応(予算措置等)
- ・自主的な参加をお願いします
- ・実際の奈良市で活用している事例紹介

第6問 その他に協働の研修に関してご意見・ご要望等があればご自由にお書きください。

- ・市内において行っている協働事業の紹介、地域の団体等の活動
- ・協働を積極的に取り入れることは何がよりよいかわかりにくい
- ・成功事例だけでなく、失敗事例もききたい
- ・地域との幅広いつながり
- ・研修では良い事だけを伝える。協働の悪い所の話をするべき。今まで良い経験がない。
- ・今までと異なる研修内容で非常に興味深く受講できました。協働の上での市民の皆さんと仲良く、反発を受けないコツを教えていただきたい。(こちらの思想を十分に知ってもらえる)
- ・研修の時期を検討して欲しい(4~7月ぐらい)

第7問 あなたは、協働は必要だと思いますか。

回答	回答数	割合
1 とても必要だと思う	53	57.6%
2 少しは必要だと思う	30	32.6%
3 あまり必要だとは思わない	4	4.3%
4 全く必要だとは思わない	0	0.0%
無回答	5	5.4%
合計	92	100.0%

※1・2を選んだ方は、なぜ協働が必要と思うかお選びください。(複数回答可)

回答	回答数
1 きめ細やかなサービスが可能となり、公共サービスの内容が充実するから	22
2 行政とは異なる考え方を取り入れることで、公共サービスの見直しが期待できるから	49
3 自治体の行財政の負担の軽減につながるから	34
4 市民自らが地域の課題に取り組むことで、市民意識の高まりが期待できるから	43
5 その他	1

【その他の内容】

・行政ができる内容が限られているので

※3・4を選んだ方は、なぜ必要と思わないかお選びください。(複数回答可)

回答	回答数
1 公共サービスは基本的には行政が担うべきであるから	0
2 行政だけで対応した方が効率的だから	0
3 協働の相手となる市民公益活動団体(地域自治組織・NPO・ボランティア団体等)や事業者等が、事業を実施する上で適任かどうかの判断ができないから	1
4 協働の相手となる市民公益活動団体等とは考え方が異なるので、相互理解を図ることが難しいから	2
5 その他	3

【その他の内容】

・協働とプロポーザル等による委託の違いがよく理解できていない。NPO法人なら契約が可能だが、地縁団体とは契約できないので、「協働」なのでしょうか？

・協働相手の自主性が低い

・うまく事が進まないときや、やめ方が難しいと思うからです

第8問 あなたは、地域自治協議会のことをご存知ですか。

回答	回答数	割合
1 名称も内容も概ね知っている	24	26.1%
2 名称は知っているが、内容は知らない	45	48.9%
3 全く知らない	18	19.6%
4 その他	0	0.0%
無回答	5	5.4%
合計	92	100.0%

第9問 他の自治体では、地域との協働を推進するため、各課の職員が通常業務と地域団体の支援業務(地域と市との橋渡し役)を兼ねる「地域担当職員制度」を実施しているところがありますが、今後、奈良市で地域担当職員の募集があれば応募しようと思いますか。

回答	回答数	割合
1 ぜひ応募したい	1	1.1%
2 応募する可能性がある	22	23.9%
3 応募しようとは思わない	55	59.8%
4 その他	4	4.3%
無回答	10	10.9%
合計	92	100.0%

【その他の内容】

・現在のところわからない

・わからない

・得意・不得意の分野を見極めて。。。

第4問 研修で学んだことを、今後の業務に活用してみようと思いますか。

※1・2を選んだ方は、どのようなことで協働したいと考えたか具体的にお書きください。

A. 安全（防災・防犯）に関すること	7件
B. 地域の見守り活動に関すること	6件
C. 地域活性化（にぎわい・交流）に関すること	14件
D. 一市民として協力したい	3件
E. 子ども（子育て支援・幼児期発達支援・虐待防止）に関すること	4件
F. 役所内連携に関すること	3件

その他

- ・地域の農地の集積・集約化
- ・応急手当普及活動事業
- ・住民がまちづくりに対してどのような考えを持っているのかを知るために協働できれば
- ・地元自治会と連携をとりながら、ものづくり
- ・フードバンク
- ・道路管理（草刈、溝掃除等）
- ・サービス（有料）として上下水道事業の活動で実施していきたい
- ・業務でワークショップへの参加、主宰が必要であるので
- ・自分の課の業務に関する内容
- ・市民への食品衛生思想の普及・啓発事業 飼い主のいない犬猫の譲渡事業（より一層の団体との協働推進）
- ・イベント、講座等の実施
- ・文化財活用事業
- ・地域学校協働事業において
- ・生活支援のコーディネーターなど民間・市民の協力が不可欠
- ・市民への意識啓発
- ・地域コミュニティにおける老人クラブの寄与